

世界中の「新しい音」が 聴ける 1day フェス!

クレア・チェイス

ボンクリ・フェス2017

坂本龍一

デヴィッド・シルヴィアン

2017

5月4日

(木・祝)

リュック・フェラーリ

ヤン・バング

ターティス・デュロン
ニル・ス・ベッター
モルヴェル

本橋秀喜郎
ボーン・オリヴェロス

イルマ・オスノ

藤倉大

権垣智也

ブルーノ・マデルナ

笹久保伸

東京 芸術 劇場

Tokyo
Metropolitan
Theatre

小林沙羅

村治真一

大友良英

永見竜生 [Nagie]

アンサンブル・ノマド
俵楽舎

福川伸陽

武満徹

ボン クリ

BORN
CREATIVE
FESTIVAL
2017

デイトム・プログラム 11:00 ~ 17:00
スペシャル・コンサート 17:30 開演(16:30 ロビー開場)
主催: 東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)
お問合せ&チケット取扱
東京芸術劇場ボックスオフィス
(電話) 0570-010-296 (休館日を除く 10:00~19:00)
(WEB) <http://www.geigeki.jp/>

「ボーン・クリエイティブ」、略して「ボンクリ」。

これは、「人間は皆、生まれつきクリエイティブだ」という意味。

数年前から僕がやっている福島県相馬市での作曲教室では、5歳から高校生までを対象に世界から現代音楽のエキスパートの演奏家を迎えて特殊技法等をみっちり紹介し、その場で子供達が新しい音楽（現代音楽と呼ぶ人も多いかも知れない）の作曲をする。しかもすべての音や指示を楽譜にきちんと記し、自分の作曲した作品をその場でプロの演奏家に演奏してもらおう。子供達が作曲中、演奏家は子供達が作品の一部を確認したり、コラボレーションし、アイデアを楽譜にするために待機し、直ぐに試演できるスペシャルな環境を作っている。

この作曲教室を何年か継続していてわかったことは、全ての人間は子供の頃、「新しい音楽」「新しい音」、そして5歳の子供の言葉を借りると「変な音」が好きだったということだ。

なぜかそのクリエイティビティは成長するにつれ、失われていく。

この「ボンクリ」は、大人になっても5歳の子供のままクリエイティブでいる人達の作品を、0歳の子供から大人まで楽しめる新しい音楽に触れるためのイベント。演奏家と共に参加し、一緒に音楽を作るワークショップもあり、即興音楽もあり、日本の伝統音楽である雅楽も、エレクトロニクス（電子音楽）も、現代音楽アンサンブルもあり、ペルー音楽も、オーケストラ作品もある。丸1日、東京芸術劇場館内に「新しい音楽」が満ち溢れる。一生分、少なくとも1年分の“世界中の新しい響き”を堪能することができるまたとない機会。5月4日は是非芸術へ！



Photo: Seiji Okumiya

藤倉大(作曲家/ボンクリ・フェス2017アーティストティック・ディレクター)

1977年大阪生まれ。15歳で渡英し、エドウィン・ロックスバラ、ダリル・ランズウィック、ジョージ・ベンジャミンに師事。ハダースフィールド国際音楽祭作曲家賞、ロイヤル・フィルハーモニック作曲賞、国際ウィーン作曲賞、パウル・ヒンデミット賞、尾高賞、芥川作曲賞、中島健蔵音楽賞、エクソンモービル賞をはじめ、数々の著名な作曲賞を受賞。ザルツブルグ音楽祭、ルツェルン音楽祭、BBCプロムス、パンベルク響、シカゴ響、アンサンブル・アンテルコンタンポラン、シモン・ポリバル響、アルディッティ弦楽四重奏団などから作品を委嘱され、国際的な共同委嘱もますます増えている。プーレーズ、エトヴェシュ、ノット、ドゥダメル、アルミンク、リープライヒ、井上道義、山田和樹らが藤倉の作品を初演・演奏している。録音は、NMC、commons、KAIROSから作品集が、楽譜はリコルディ社から出版されている。

<http://www.daifujikura.com/>

参加アーティスト

アンサンブル・ノマド(現代音楽アンサンブル)

1997年、ギタリスト佐藤紀雄の呼びかけによって集まった無類の個性豊かな演奏家によって結成されたアンサンブル。[NOMAD] (遊牧、漂流) の名にふさわしく、時代やジャンルを超えた幅広いレパートリーを自在に採り上げ、斬新なアイデアやテーマによるプログラムによって独自の世界を表現するアンサンブルとして内外から注目されている。



©Maki Takagi

大友良英(作曲・ターンテーブル)

1959年生まれ。ターンテーブル奏者、ギタリスト、作曲家。実験的な音楽からジャズやポップス、NHKの朝の連続小説「あまちゃん」の作曲などの領域まで作風は多様多様。日本はもとより世界各地で多くのアーティストとコラボレーションを行う。2016年には福島県内の中高校生と発表したミュージカル「タイムライン」の音楽を担当するなど、様々な年代との音楽作りに取り組んでいる。



©大友良英

伶楽舎(雅楽アンサンブル)

雅楽の合奏研究を目的に1985年に発足。音楽監督・芝祐靖。発足以来、現行の雅楽古典曲以外に、廃絶曲の復曲や現代作品の演奏にも積極的に取り組み、幅広い活動を続けている。CD『秋庭歌一具』は芸術祭レコード部門優秀賞受賞。解説を交えた親しみやすいコンサートを企画し、雅楽への理解と普及にも努め、小中高校生を対象としたワークショップ、レクチャーコンサートなども多く行っている。



イルマ・オスノ(うた)

イルマ・オスノは12歳までケチュア語しか話さないアヤクチョ県の小さな村に生まれ、羊飼いをしながらその土地の文化、音楽を自然に覚えた。日本に来るまでは伝承音楽の継承者(歌い手、ダンサー)として活動する高校教師だった。現在は大学でスペイン語講師をしながらアンデス文化の紹介をおこなっている。



クレア・チェイス(フルート)

ニューヨーク・タイムズで「行き過ぎとも言うべきテクニック、幅広いスタイルと鋭い音楽性の持ち主」と賞賛され、現在最も革新的なフルート奏者として注目を集めている。過去10年で100曲以上の新曲を世界初演しており、その大半は彼女のために作曲されたもの。2001年には国際ナショナル・コンテンポラリー・アンサンブル(ICE)を設立。これまでに500以上の演奏会をプロデュースしている。



Photo: David Michalek

福川伸陽(ホルン)

NHK交響楽団ホルン奏者。ソリストとして、リサイタル、協奏曲演奏などを日本各地で行う。「ホルンのレパートリーの拡大」をライフワークとして、作曲家への委嘱活動や、珍しい室内楽の紹介を積極的に行っており、吉松隆、藤倉大、鈴木優人他多数の作曲家から作品を献呈されている。



ヤン・バング(エレクトロニクス)

音楽家、レコードプロデューサー。ノルウェー南部の町クリスチャンサンで育ち、同郷の音楽家エリック・オノレと音楽活動始める。これまでにモートン・ハルケット、デヴィッド・シルヴィアン、ニルス・ベッター・モルヴェルらと共にアルバムを発表。2005年からはライブリミックスをコンセプトとした即興音楽祭「アムクト」を立ち上げ、現代ノルウェーで最も革新的な音楽家の1人として活躍している。



本條秀慈郎(三味線)

栃木県宇都宮市出身。本條秀太郎師に古典/現代音楽を師事し本條秀慈郎の名を許される。津軽三味線を長谷川裕翔氏に、三味線を故村屋勝芳壽、本條秀太郎の各氏に師事。現代邦楽研究所修了。ニューヨークへ留学し、坂本龍一氏や藤倉大氏とのセッション、リサイタル等を展開。現在までに自主リサイタルを6回開催し、国内の他、アメリカ、ヨーロッパ、アジアの各地でも演奏。三味線音楽の今を追求し続けている。



ニルス・ベッター・モルヴェル(トランペット)

ノルウェー出身のジャズトランペッター、作曲家、レコードプロデューサー。1997年にECMから発表したアルバム『クメール』は、異色のサンプリングを多用したテクノやアンビエント色の濃いサウンドで注目を集めた。2001年のレーベル移籍後も、ジャズと電子音楽を融合させたフューチャー・ジャズのパイオニアとして作品を発表し続けている。16年には最新アルバム『BUOYANCY』をリリース。



Photo: Peder Otto Oyvik

村治奏一(ギター)

幼少の頃から注目を集め、1997年クラシック・ギター・コンクール、98年スペイン・ギター音楽コンクール、第41回東京国際ギター・コンクールに続けて優勝。デビューCD「ジャコヌ」は、レコード芸術誌の特選盤に選ばれる。2006年ワシントン・ケネディーセンター公演にて本格的な米国デビューを果たす。メディアへの登場も多くNHK「トップランナー」「J-MELO」を初めTV、ラジオに多数出演。



小林沙羅(ソプラノ)

東京藝術大学卒業。同大学院修士課程修了。2010年よりウィーンとローマにて研鑽を積む。国内外のオーケストラとの共演を重ねるほか、オペラやオベレッタでは持ち前の演技力とダンスの能力を活かす多くの舞台に出演。15年には野田秀樹演出/井上道義指揮『フィガロの結婚』のスザンナ役にオーディションで抜擢され、その演技力と歌唱で観客を魅了した。16年にはセカンドアルバム『この世でいちばん優しい歌』をリリース。



©Nippon Columbia

1 デヴィッド・シルヴィアン & 藤倉大
Five Lines, The Last Days of December

ライブ版世界初演

この作品は僕とデヴィッド・シルヴィアンが長年かけて、毎日メールしあい、ニューヨークで録音し、お互いにおそらく尊敬しながらも時には大喧嘩もして(笑)、やっとできた共同作曲作品の2曲。僕は日本で中学生をしている時からデヴィッド・シルヴィアンのファンだ。ずっと一回で良いから一緒に仕事をしてみたいな、と夢みていたら、一回お会いすることができた。そこで僕の音楽を彼が聴き、時には1日4通くらいのメールのやりとりをほぼ毎日するほど仲良くなった。楽譜を読まないデヴィッドにどうやって今作っているこの共同作曲の自分の部分を彼に聞かせるか、をとっても悩んだのを思い出す。ニューヨークに行って録音し、歌の部分はデヴィッドが作曲したのだが僕が思い描いていたのとは全く違う、でもデヴィッドの方が(当たり前ながら)数倍良い!デヴィッドは昔から自分の作品がヴォーカリストとしての作品ではなく、クラシックの作品みたいに、自分が舞台に立たずに作曲者として作品が演奏されたい、と常に言っていたのを思い出した。それで、今回は音域から声質から全くデヴィッドと違う小林沙羅さんの声で歌ってもらいます(デヴィッドはこの事をとても喜んでいだし、今回の為にこの2曲を楽譜にしたのだが、それを見て「美しい」と読まない楽譜を見ながら言っていた。楽譜起こしも大変だったけど僕もそう言ってもらえて嬉しかった)。作曲家としてのデヴィッド・シルヴィアンを聞いてみてください。

2 坂本龍一
新作

ライブ版世界初演

坂本龍一さんはもうここ何年も仲良くさせていただいて、結構定期的にメールでお話する事もあります。おそらく坂本龍一さんの作品はご本人曰く「自分より、よく知っている」というほど僕はかなり詳しく昔から(中学生の時から)聴いて知っています。今回もこのポンクリ・フェスを考えていた時にたまたま坂本さんのこの作品の楽譜について僕に質問されたのでこの作品の存在を僕は知る事ができました。結構歳下の僕なんかに質問をさっさとする所が坂本さんのすごい所。楽譜を見るとすごく緻密に書かれた現代音楽作品。これがコンサートホールでどう響くか、すごく楽しみ。

3 武満徹
『秋庭歌一具』より 第4曲「秋庭歌」

この作品は僕にとって武満作品で一番好きな曲です。海外CDリリースでは、ずっとこの4曲目だけがリリースされていた。これが最初に書かれたメインの作品だと思う。よってその思い入れのあるこの曲を今回入れました。

4 「秋庭歌」ライブ・リミックス

このライブリミックス、というのは僕が最初に知ったのはヤン・バングが主催するノルウェーの即興音楽祭「ブント」でなぜか僕の個展をしてもらった時だ。おそらく僕の作品のみ「譜面台」が必要なコンサートだったのだろう。その時は僕の娘が生まれる時だったので僕は聴きに行けず。その数年後もう一回今回は僕を演奏家(キーボード)として呼んでもらい、その時にこのライブリミックスを初めて体験+演奏した。全てがライブなので、この演奏の前に演奏された素材(今回は「秋庭歌」)が変調されるだけではなく、僕が今弾いた音が延長上に鳴っていたり、など。こういう音楽の作り方もあるのか!と新鮮だった。それを今回ここでできたらな、と思いました。

5 ブルーノ・マデルナ
ひとつの衛星のためのセレナータ

この作品は僕の尊敬するノマドの指揮者/ギタリストである佐藤紀雄さんの提案です。佐藤さんはこの作品を何回も演奏なさっているようで、即興でありながら書かれている部分もある、美しい雰囲気を出す作品です。

6 大友良英
新作

世界初演

大友良英さんは単に僕が個人的なファンでありました。デヴィッド・シルヴィアンのリミックスなんかをした時に渡されたデータにOtomoと書かれたトラックがあったり、「あーこれがあの大友良英さんの演奏したトラックか!」と思いがらじったりしていたものです。大友さんも欧州の現代音楽祭などでよく出演していらっやっていて、実は2005年のドナウエッセンゲンでも2016年のブリュッセルの音楽祭でもちょうど僕のコンサートの次の日、とか直後、直前などで、ニアミスで今でも実際にはお会いしたことがありません。今回も何かこのフェスで演奏できる作品はありませんか?とお尋ねした所、「せっかくなので新しい曲書いていいですか?」とおっしゃっていただき、楽しみにしています。

7 坂本龍一(藤倉大編曲)
thatness and there ness

アンサンブル版世界初演

僕は他の人の音楽をオーケストレーションする事はまずありません。ですが、前回坂本龍一さんのバレエ・メカニックのオーケストレーションをしたのに続いてこの作品をオーケストレーションしました。バレエ・メカニックのオーケストラ版を一人で聴きに行った僕の母は「あー、よく大の部屋から流れていた音楽だった」と言っていたが、これもその「よく流れていた」音楽が原曲だ。美しいワルツなのに、ブチッという太いアナログシンセが原曲。それをどうアンサンブルで表すか、を念頭にオーケストレーションしました。かなり原曲に忠実にやっつもりです。

8 藤倉大
フルート協奏曲

アンサンブル版日本初演

この作品は僕の大親友フルート奏者クレア・チェイスに書いた協奏曲。名古屋フィルで僕のコンポーザー・イン・レジデンスが決まった時に真っ先にクレアに協奏曲書かせてください、と名古屋フィルにお願いして実現した。オーケストラ版とアンサンブル版と2つあり、アンサンブル版が日本で演奏されるのはこれが初めて。初演は2015年12月だったにも関わらずもう5回くらいいろんな所で再演されている。クレアはアメリカのアンサンブルICEのメンバーであり、そのICEと録音したのがこのコンサートの冒頭のデヴィッド・シルヴィアンとの共同制作作品。ヤン・バングとはシルヴィアンとのリミックスで僕は一緒に参加していて、大友さんとは間接的にリミックスで関わっている。ノマドは僕に日本で初めて委嘱されたのを演奏してくださった楽団(のちにその作品Abandoned TimeはICEによって録音されリリース)。こうして演奏家達の面でも直接的、間接的に繋がっているこの曲目。是非お楽しみに!

出演:

- ・アンサンブル・ノマド(指揮:佐藤紀雄)[1, 2, 5~8]
- ・伶楽舎[3, 5]
- ・クレア・チェイス(フルート)[8]
- ・ヤン・バング(エレクトロニクス)[4]
- ・ニルス・ベッター・モルヴェル(トランペット)[4]
- ・小林沙羅(ソプラノ)[1]
- ・大友良英(ターンテーブル)[6]
- ・藤倉大(エレクトロニクス)[4]

サウンドデザイン:永見竜生[Nagie]

リコメンデーション

まだおもしろい音があったのだ、といううれしい驚きをもって藤倉大さんの音楽を聴いています。

坂本龍一

藤倉大と私がいくつかのプロジェクトで共同作業をしたと思ったのは、われわれの異なる音楽的バックグラウンドがどのように斬新な形でクロスオーバーするかを見てみたいという好奇心からではなく、お互いの作品に対する純粋な愛と尊敬からであった。そして、それ以来、友情がはぐくまれている。私たちはどちらも、これらの作品が生で演奏されるとは思ってもいなかったし、このような形で取り上げられるとは想像だにできなかった。この作品の初演が“ポーン・クリエイティブ”フェスティバルで行われることに興奮と満足を感じている。

デヴィッド・シルヴィアン

スペシャル・コンサート

2017年5月4日(木・祝) 17:30開演/16:30ロビー開場
コンサートホールでおこなう、一夜限りのスペシャル・コンサート。
即興音楽もあり、雅楽もあり、エレクトロニクス(電子音楽)もあり、オーケストラ作品もあり。脳内を刺激する「ボンクリ」音楽が一夜に集結!

会場：東京芸術劇場コンサートホール
チケット料金：S席3,000円 A席2,000円 [全席指定・税込]
一般発売：2017年2月4日(土)

チケット取り扱い：

・東京芸術劇場ボックスオフィス

【電話】0570-010-296(休館日を除く10:00~19:00)

※一部携帯電話、PHS、IP電話からは、ご利用いただけません。

【窓口】営業時間：休館日を除く10:00~19:00

【WEB】<http://www.geigeki.jp/t/> (PC) <http://www.geigeki.jp/l/t/> (携帯)

※24時間受付(メンテナンスの時間を除く)

・チケットぴあ

【電話】0570-02-9999 (Pコード:321-434)

【WEB】<http://pia.jp/t/geigeki/>

・イープラス

【WEB】<http://eplus.jp/>

・ローソンチケット

【電話】0570-084-003 (Lコード:34496)

【WEB】<http://l-tike.com/>

・東京文化会館チケットサービス

【電話】03-5685-0650 (休館日を除く10:00~19:00)

【WEB】<http://www.t-bunka.jp/>

未就学児のご入場はお断りいたします。未就学児をお連れのお客様は、スペシャル・コンサートを同時中継するスクリームの部屋のチケットをご購入ください。

デイトタイム・プログラム

2017年5月4日(木・祝) 11:00~17:00

赤ちゃんからシニアまで楽しめるアトリウム・コンサートやワークショップ・コンサートを、館内各所でおこないます。

アトリウム・コンサート (無料)

雅楽、ホルン、三味線、ギター…ボンクリ精神あふれる音楽が東京芸術劇場の館内を駆け巡ります。いつ何が演奏されるかは、当日までのお楽しみ!

会場：館内各所

出演：アンサンブル・ノマド(現代音楽アンサンブル)、伶楽舎(雅楽アンサンブル)、
福川伸陽(ホルン)、本條秀慈郎(三味線)、村治奏一(ギター)ほか

リュック・フェラーリの部屋 (無料/入退場自由)

アークスモニウム(電子音響音楽の演奏装置)奏者として活躍する榎垣智也がデザインした音響空間で、フランス電子音楽の巨匠リュック・フェラーリの音楽をお聞きいただけます。

会場：アトリウム東(地下1階)

監修：榎垣智也

【関連企画】エル・システム作曲教室

共催：一般社団法人エル・システムジャパン

特別協賛：LVMH モエ ヘネシー・ルイ ヴィトン グループ

※内容、申込方法など詳細は、4月上旬にHPで発表いたします。

東京
芸術
劇場

〒171-0021 東京都豊島区西池袋1-8-1
TEL:03-5391-2111
<アクセス> JR 東武池袋線 池袋駅西口より徒歩2分。池袋駅地下通路の2号出口で直結しています。



スクリームの部屋

2017年5月4日(木・祝) 17:30開演/17:00開場

未就学児をお連れのお客様を対象に、コンサートホールでおこなうスペシャル・コンサートを同時中継いたします。コンサートホールにお入りいただけない小さなお子さまとも、一緒に「ボンクリ」音楽をお楽しみいただけます。(途中入退場自由)

会場：シンフォニースペース(5階)

対象：未就学児とその同伴者(0才より入場可)

チケット料金：500円(未就学児・同伴者共通、定員あり)

一般発売：2017年2月4日(土)

・東京芸術劇場ボックスオフィス<電話・窓口>のみ取扱い。

・ご入場には、ひとり1枚チケットが必要です。

・未就学児1名につき、同伴者2名までご購入いただけます。

・未就学児には、必ず高校生以上の保護者をご同伴ください。

・会場内にベビーカーはお持ち込みいただけません。同フロアにベビーカー置き場をご用意いたします。

・未就学児がご来場できなくなった場合は、差額をお支払いの上、コンサートホールのスペシャル・コンサートにご入場いただけます。

・配信中継イベントのため、通信環境等の諸事情により、画像・音声の乱れが生じる場合がございます。

ワークショップ・コンサート

スペシャル・コンサート、もしくはスクリームの部屋のチケットをお持ちのお客様は、ワークショップ・コンサートに無料でご参加いただけます。(各定員あり、事前申込制)

会場：シンフォニースペース(5階)

ボリン・オリヴェロスの部屋 (演奏：クレア・チェイス)

惜しくも昨年逝去したアメリカの女性アコーディオン奏者/作曲家ボリン・オリヴェロスの音楽を、生前最も近い存在だったフルート奏者クレア・チェイスがワークショップ形式で紹介いたします。

ペルー音楽の部屋 (演奏：イルマ・オスノ、協力：笹久保伸)

ペルー山岳地域の町に生まれ、羊飼いをしながら文化/音楽を自然に覚えた歌手イルマ・オスノが、アンデスで歌い継がれている美しい歌をワークショップ形式で紹介いたします。

ノルウェーの部屋 (演奏：ヤン・バング&ニルス・ベッター・モルヴェル)

エレクトロニカ・シーンを牽引する音楽家ヤン・バングとノルウェーの前衛トランペッター、ニルス・ベッター・モルヴェルが北欧ジャズ/エレクトロニカの魅力を紹介するコンサート。

三味線の部屋 (演奏：本條秀慈郎)

若手実力派として注目を集める三味線奏者の本條秀慈郎が、伝統から現代までの三味線の魅力を紹介するコンサート。

※すべて0才より入場可。未就学児には高校生以上の保護者の同伴が必要です。

※内容、タイムテーブル、申込方法など詳細は、3月中旬にHPで発表いたします。

東京芸術劇場内で同時開催

「TACT/FESTIVAL2017」、「集まれ!池袋みんなの大道芸」

2017年5月4日(木・祝)~7日(日)

ボンクリ・フェス2017公式ツイッター
www.twitter.com/BornCreativeFes



助成：公益財団法人 花王 芸術・科学財団

※都合により出演者・曲目・内容等が変更になる場合がございます。

※公演中止を除き、お買い求めいただいたチケットのキャンセル、変更はできません。

東京芸術劇場託児施設/事前予約制・有料

電話：(代)03-5391-2111(平日10:00~17:00)